

開館 15 周年記念特別展

茶の湯の心

～早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「富岡重憲コレクション」から～

2013 年 10 月 26 日 (土)～12 月 13 日 (金)

土曜 (第四土曜・10 月 26 日、11 月 23 日を除く)、日曜、祝日休館

10a.m.～1p.m. 2p.m.～4:30p.m. (入館はそれぞれ 30 分前まで)





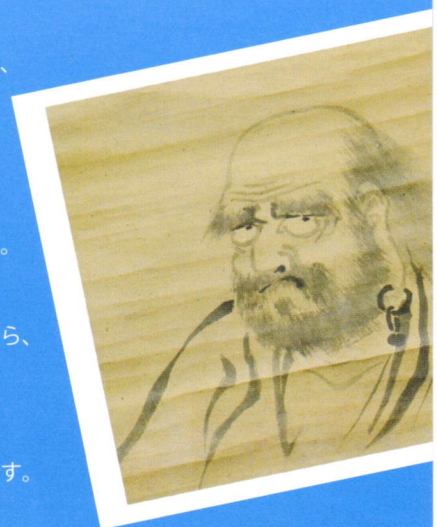
日本の地熱開発事業の第一人者・故富岡重憲氏の茶心が集約された名碗と大徳寺派の墨跡

本年、開館 15 周年を迎えた齋田記念館では、これを記念し、実業家・富岡重憲（1896～1979）氏の茶道具をご紹介する特別展を開催します。

日本重化学工業株式会社の創業者・富岡重憲氏は、日本の地熱開発事業の先駆者として合金鉄工業の発展に尽力するかたわら、書道や茶道にも通じた文人でした。昭和 20 年代に伊万里の色絵鉢から美術品の蒐集を始めたといわれ、以来半生をかけたコレクションの数は約 900 件に上ります。それらは、東京・大森の富岡氏の居宅を改造した財団法人富岡美術館で 20 年以上公開されていましたが、同館が 2003 年に惜しまれつつ閉館し、現在は早稲田大学会津八一記念博物館に収められています。富岡コレクションの中核をなす鑑賞陶磁と白隠などの近世禅書画はつとに著名ですが、本展では、氏の茶心が集約された名碗と大徳寺派の墨蹟を中心に展覧します。

富岡氏は、茶を喫するには「茶碗と茶筴があればよい」と言い、客人に合わせて茶碗を選んだそうです。その為、茶碗の数に比して他の道具の数は多くはありませんが、禅書画のうち大徳寺派の僧たちのものは、茶席を意識して求めたようです。遺品である禅語に関する書物には書き込みがなされ、禅の真髓に触れる手掛かりとしていたことが窺われます。

床の間には、天祐紹泉の「移り変わる人の心の中にも、変わりようのない真実の自己がある」という意の一行書「心々無別心」を、よく掛けていたといえます。いわゆる数寄者とは異なる趣を放つ富岡氏の茶道具から、独自の茶に対する姿勢、気宇壮大なもてなしの心をご感得頂けましたら幸いです。



珠光印「達磨図」再発見、77 年振りに公開

また、この度の調査で、珠光在印「達磨図」が同コレクションに収められている事が判明しました。珠光の落款、印章のある絵画は他に三点が知られますが、本図は、昭和 11（1936）年創元社刊『茶道全集』に東京・有尾佐治氏蔵として紹介されて以来、77 年を経て公開されることとなります。茶人珠光と画人珠光が同一人物であるかを検証する一助として、この機会には是非ご覧下さい。